

平成19年7月 日

那須烏山市長 大谷 範雄 様

那須烏山市総合計画審議会
会長 中村 祐 司

那須烏山市総合計画・基本構想について（答申）

平成19年5月11日付け那烏企第41号で諮問のあった「那須烏山市総合計画・基本構想（案）」について、下記のとおり答申します。

記

当審議会に諮問された那須烏山市総合計画・基本構想（案）は、南那須町と烏山町が合併して初めてのまちづくりに関する根幹的かつ羅針盤的な計画であり、その計画を策定するにあたっては、多くの市民の意見を集約することを目的とし、審議会の開催前から五分野にわたり公募を含めた部門別まちづくり懇談会での議論などを通じ、行政と協働しながらのまちづくりに取り組むことを基本的な方針にしたことは、新しい試みとして評価できるところであります。しかし、本市を取り巻く社会経済情勢は、国の三位一体の改革、少子高齢化の一層の進展、経済のグローバル化、情報技術の飛躍的な進展など、本市の財政運営に対し厳しく申しかかってきており、本計画における長期的展望にたったまちづくりの取り組みの展開が今後期待されるところであります。

当審議会では、総合計画の役割や位置付けやこうした背景を下に、本基本構想（案）に関し、慎重に審議した結果、基本的な考え方や方向性、さらにその内容については、妥当であると認め、ここにその旨を答申いたします。

なお、本基本構想に基づく行政運営に関し、審議の過程において特に配慮して計画の推進を図られるよう要望のあった事項は、次のとおりです。

1 計画フレーム（人口フレーム）

目標年次（平成29年度）における政策目標人口を30,000人と設定していますが、国全体が人口減少社会に突入しており、ますます大都市圏域への人口流出は目に見えて明らかな状況の下、厳しい目標人口設定であると思慮するところですが、本市の魅力ある自然を大々的にPRするとともに、近隣工業団地の近接性による企業誘致の推進、UJIターンや若者世帯の定住化を促進するなど積極的な施策展開を講じ、目標年次人口30,000人の実現に向けた効率的、効果的な取り組みを図りたい。

2 都市構成の基本的な考え方（将来都市構造）

本市における都市構成の現状としては、2町の合併ということもあり、2つの都市核（南那須市街地、烏山市街地）を有する2極分散型となっており、その中でも烏山市街地においては、国道294号と主要地方道宇都宮烏山線が交差、さらにはJR烏山線の始発駅があり広域交通連携拠点を担っており、従前より国・県の官公署が集積し、本市の中核として機能するエリア（都市活動拠点エリア）に相応しいものと認識できることから、将来における新本庁舎の位置すべきところは、都市活動拠点エリアとすることを尊重されたい。

しかしながら、行財政の合理化やIT環境の普及などの観点を考慮し、新本庁舎の建設にあたっては、無駄のない既存施設等の有効活用も視野に入れつつ、市民の意見を十分に配慮した取り組みを図られたい。

3 「ひかり輝くまちづくり」のための重点戦略

まちの将来像や行政の将来像の実現を目指すにあたっては、これまで以上に市民と行政との協働によるまちづくりが重要であり必要不可欠であると理解するところがあります。

また、目標の実現にあたっては、行政側における事務事業の執行だけではなく、実施段階での評価や検証を的確に実践するのも重要な手段であることは言うまでもありません。

よって、これからの総合計画の展開にあたっては、協働という観点、または説明責任の履行という観点から、市民におけるチェック機能を有した組織の確立を図られるよう検討されたい。

4 総合計画におけるサブタイトル

総合計画は、将来におけるまちづくりを総合的かつ計画的に進めるための“将来ビジョン”であり、職員ばかりでなく、市民も共用できる計画づくりを目指しているものと認識しております。

よって、これらを考慮し、当該計画に親しみやすい愛称を次のようにご提案します。

『ひかり輝くまちづくりプラン』